

今年、灯台150周年です

現在、全国にある灯台の始まりは、明治の初めに導入された洋式灯台にさかのぼります。

江戸末期、英・米・仏・蘭の四ヶ国が、関門海峡を舞台に長州藩と戦った下関戦争の賠償の一環として、開港した各港への灯台の設置を約束させ、1番目に建設された灯台が、神奈川県横須賀市にある観音埼灯台です。

明治元年11月1日に、この観音埼灯台の建設を着手しており、この年を基点として、平成30年は、灯台の近代化150周年を迎えます。

対馬の主な灯台

灯台150周年にあたり、対馬に設置されている主な灯台を毎月順番にご紹介します。

その2 三島灯台

三島灯台は、日清戦争開始直後の明治27年、海軍省の要請に応じて建設され、対馬最南端の神埼灯台とともに、約3週間ほどの短期間で建設された灯台です。その後、第二次世界大戦で戦災に遭いましたが、昭和24年に建て直し工事が行われ復旧しています。

昭和50年まで、三島灯台に職員が滞在し、灯台の管理を行っていました。現在は、対馬市巖原町にある対馬海上保安部から点検に出向いています。





三島灯台は、平成5年2月にディーゼルエンジンの自家発電から太陽電池に改修され、現在の灯台に建替えられています。



三島灯台は、昼間に太陽電池でバッテリーを充電し、夜間に灯台を点灯させています。灯台の光の強さは、16万カンデラで、約27キロメートル先まで光が届きます。



昭和47年12月から、三島灯台で観測した気象情報（風向、風速、気圧及び波高）の提供を行っています。

現在は、テレホンサービスのほかインターネットでも提供しています。（現在の波高値は、対馬北局で観測したものです。）